三菱マヒンドラ農機

NEWS RELEASE

2023 年 4 月 20 日

マイクロプラスチック殻を出さないペースト一発肥料による水稲生育試験を
本年度は全国 54 カ所で実施
―「みどりの農業システム戦略」認定の田植機で収量や食味を広範囲に検証―

三菱マヒンドラ農機株式会社（本社：島根県松江市）は、マイクロプラスチック殻を出さないペースト一発肥料を使用した水稲の生育試験を、本年度は青森から鹿児島まで全国 37 府県、計 54 カ所の圃場で実施します。

昨年、長岡市(新潟)、岡山市、矢板市(栃木)などの圃場で実施した実証試験では、玄米収量が各県平均に対して 11~24%の増量となり、食味スコアについてもすべて「良」(80 以上)と良好な結果が出ています。これによりペースト一発施肥による田植えは、粒状一発肥料の課題であるプラスチック被覆殻の流出と無縁であるだけでなく、水稲の生産性においても平均を上回る成果を上げることが示されました。本年度は、この生育試験を全国規模で実施することで、各地域においてペースト一発肥料の有効性を確認し、その結果を地元の農家や農業関連団体と共有することで、さらなる理解の促進と浸透を図ってまいります。

本年度の生育試験の概要は以下のとおりです。
期間：　4 月上旬～11 月上旬。一部圃場で既に植付を開始。
圃場：　青森県から鹿児島県まで全国 37 府県の 54 の圃場において、
　　ペースト一発肥料による生育を実施。
検証事項：収量・食味・減肥など
結果公表：各地生育状況は、随時 HP 特設ページへアップを予定しています。
　　また、生育結果の発表は、令和 6 年初めを予定しています。
　　栽培試験データは、今後の営農情報の提供にも活用します。

昨年の実証試験の結果についてはこちらをご参照ください。
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000116205.html

水稲栽培においては、これまでプラスチック被覆殻で覆われた粒状一発肥料が一般的に使用されてきましたが、近年、水田から流出するマイクロプラスチック殻が問題視されています。弊社は、業界で初めてペースト側条施肥機を開発・発売（1974 年）し、環境負荷の低いペースト肥料を用いた農法への対応に長年取組んできました。マイクロプラスチック問題の解消と化学肥料の削減に寄与できることから、昨年 11 月にペースト施肥対応の田植機は「みどりの食料システム戦略」の認定事業に選定されました。またペースト肥料には、雨でも田植え作業ができるなどのメリットもあります。

さらに、弊社の紙マルチ田植え機も、その抑草効果により無農薬の有機栽培を可能にすることから、2030 年までに化学農薬の使用 50%削減することを目標の一つとする「みどりの食糧システム戦略」対象事業に選定されています。紙マルチ機でも、ペースト施肥の使用が可能です。

※写真は昨年のペースト一発施肥実証実験の様子

以上